

会 議 録

会議名	令和3年度 第4回田名地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)	中央区役所 田名まちづくりセンター 電話042-761-0056 (直通)		
開催日時	令和3年11月16日(火) 18時00分～19時30分		
開催場所	田名公民館 大会議室		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)	
	その他	6人(市民局区政推進課職員、市民協働推進課職員、南区役所職員、中央区役所職員)	
	事務局	2人(田名まちづくりセンター所長、地域政策担当)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>さがみはらポイント制度に係る田名モデル地区事業の結果について</p> <p>(1) さがみはらポイント制度に係る経過について(説明)</p> <p>(2) 田名モデル地区事業について(報告)</p>		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(◆は会長の発言、○は委員の発言、●は事務局の発言 □は区政推進課長の発言、
■は市民協働推進課長の発言)

1 開会 (志村会長)

2 議題

(1) さがみはらポイント制度に係る経過について (説明)

今年度のまちづくり会議の進め方、モデル地区事業の概要及び田名地区モデル事業を振り返りながらまとめた意見について、事務局から説明した。

<主な意見等>

なし

(2) 田名モデル地区事業について (報告)

区政推進課長から田名地区における地域活動ポイント制度を活用したさがみはらポイントモデル地区事業の検証結果の報告を行った。

<主な意見等>

○地域活動ポイントについて、検証結果報告 P13 まとめの結論とした「自治体ポイント制度以外の地域課題の解決に向けたより効果的な取組みについて、検討することとする」という内容と、この制度存続に関連はあるか。地域活動ポイントを存続させた上で、今後の制度を検討していくのか。

□地域の担い手不足の解消を目的とすると、ポイント制度の効果や有用性は高いと考えている。しかしながら、国では現行の仕組みを終了させて新たな仕組みを検討していることから、市としては新たな仕組みや今回明らかになった課題などを踏まえながら今後の制度を検討していきたい。

○今の回答であれば、地域活動ポイントの仕組みそのものや、この制度自体を存続するとも、しないとも言えないのではないか。

□地域活動ポイントは、国の構想に位置付けられた仕組みの中で、市が制度を作ったものである。今回、国の仕組みが終了してしまうことに伴い、ポイント付与ができなくなってしまう。国の仕組みを活用せず、他の手段で制度存続させるという考え方もあろうかと思うが、現状のポイント制度の継続はできない。今後も何かしらの方法で制度を継続させなければならないと思っているが、それがポイントを使った制度となるか別である。

○相模原市独自に地域活動を支援するためにポイント制度を導入したはずである。国

の仕組みが終了するという話ではなく、相模原市として考える問題ではないか。今の説明だと、国の制度が終了すると市の制度も終了してしまうように聞こえる。

■さがみはらポイントは国の仕組みを基にした制度である以上、国の仕組みと合わせて本市の制度も終了せざるを得ない。新たに地域活動のポイント制度を考えていかなければならないというのは十分承知している。国では新たな仕組みの構築を考えており、現在、他自治体で実証実験しているところである。国の実証実験の結果を待って、本市として、国の新たな仕組みにのるのか、全く別のものを構築するのか、もう少し時間をいただいて検討したい。また、田名地区モデル事業としての効果はあったと認識しており、それらも活かしながら検討したい。

◆現段階では今のような回答しかできないのかもしれないが、当初から関わった者としては、はっきりしない心情である。

○国の仕組みを基にしたというが、それはポイント付与の手段の話である。制度自体は相模原市が作ったものである。国の仕組みによって左右されるものではない。新たな仕組みを基にするかどうかと同様に言える。

我々が期待しているのは、「制度の基本的な思想は残す。ただし、国の仕組みがどうなるか分からない、使えるものかどうか分からない、使えなければ、市独自の仕組みを作って制度を継続する」という回答である。モデル地区事業の効果があつたことは認めているものの、今後の制度については検討していく、どうなるか分からないという回答では納得できない。田名地区の思いとしては、現行制度の仕組みは残しておいてもらいたい。そのような意見を持っていることを認識しておいてもらいたい。

○P13 まとめ「マイナンバーカードの活用による不便さも見受けられるため、その対策としてマイナンバーカードを活用しない新たな制度の検討も必要」と記載されている。現在、構築されつつあるマイナンバーカードの仕組みを活用しないこともあるのか。マイナンバーカードを何のために作ったのか疑問を持ってしまう。

□マイナンバーカードを活用した現行の仕組みは終了してしまうが、国は新たな仕組みを検討している。国の新たな仕組みによって、現在の課題がクリアされていれば問題ないが、もし課題があつた場合には別の方策も考えていく必要があることから、このような記載となっている。

○せっかくマイナンバーカードを保有しているのだから、それを最大限活用できる方策を是非検討してもらいたい。

◆マイナンバーカードの活用をどうするかという点で、両側面からの意見があつた。P13「5 まとめ」の4つめの項目（記述内容）について、このままの記載で受け入れるか、預かりにするか、各委員の意見を伺いたい。

○区政推進課長から、コロナ禍で報告書の作成、報告が遅れて申し訳ないと話があつた。このモデル地区事業もコロナ禍のために各団体の活動が制約されてしまい、担い手育成という観点では消化不良であつたという認識である。新たな制度の検討を

是非お願いしたい。

自治会加入者の減少をいかに食い止めるかを市も検討すべきである。自治会未加入者には地域情報等が十分に届かない。自治会加入促進、担い手育成について地域活性化を真剣に考えないといけない。

- 高齢化が進んで、介護保険制度の負担に国が耐えられず、地域が担うこと、地域に求められることが増えてきた。高齢者が心配なく暮らせるよう、地域の担い手がしっかりとした地域を作らなければならない。今後、担い手づくりがますます重要となる。しかしながら、自治会加入率が低下しているし、PTA活動にしても親が無関心である。地域だけでなく、行政の支援も必要となってくる。

市独自のポイント制度が導入された時、担い手づくりに非常に役立つと考えた。市はマイナンバーカードの話をしているが、それはあくまで管理手段であり、地域担い手づくりには関係ない。報告書記述をどうするかというより、このような観点で考えてもらいたい。この報告書についても、もう少し我々が理解できるような文面でまとめてもらいたかった。高齢社会を迎えるにあたって、相模原市は政令市として、国の制度とは別に地域づくりをどのようにしていくかを考えるべきである。検討をよろしくお願いしたい。

- ◆今の委員の意見、要望については持ち帰っていただき、また報告書の表現の仕方を変えていただいた方が地域としても受け入れやすいのかなと感じた。他に意見等あるか。

- 自治会活動は危機に瀕している状態ではないか。田名地区では子ども会や市子ども会と連携する組織もなくなってしまった。自治会活動も数年のうちに役員の担い手がおらず、消滅してしまうおそれがある。

自治会は、地域の福祉、防災、防犯、安全安心等の地域の基礎的活動をしていることから自治会全員加入という制度を作ることも可能ではないか。自治会加入を市の制度として考えても良いのではないか。

ポイント制度については、成功かどうかは人によって意見は違いうだろうが、地域と商店の結びつきという点では効果があったと思う。青パトは田名地区においては貢献しているが、乗務員は自治会長OBや自治会経験者がやっており、担い手の拡大には直接的には結びついていない。まちづくりという観点で、ポイント制度の継続を切望するのであれば、田名地区で独自予算を作っても良いのではないか。まちづくり会議においても真剣に考えていく必要がある。

- ◆モデル地区事業は田名地区だけであった。新たな制度を作っても地域に普及するかどうかは、制度の目的や効果しっかりと伝え、市連（他地区）をそのような方向に向かせないといけない。

- モデル地区事業が尻切れトンボにならないよう、なるべく早く制度を作って欲しい。そうでなければ協力店舗に何も言えない。不完全燃焼である。せめて、年内に方向性を示してもらいたい。

□年内という話があったが、国の新たな仕組みの検証が今年度末に予定されているため、年内にお応えできる状況ではないことはご理解いただきたい。申し訳ないが、もう少し時間が欲しい。検討は進める予定である。

○社会常識として、協力していただいた15店舗に、次の国の検証結果が出たら行きますよ、というのは許されない。3月にモデル地区事業が終わったにも関わらず、この時期の報告となった。しかも、制度が終了するという報告である。次の制度の方向性を報告できると良いが、聞いていると継続するかどうか分からない。継続したとしても再来年になってしまう可能性もある。地域の人を大事にするのであれば、適宜、報告があっても良いのではないか。現状報告だけでも良い。多くの人が頑張ったモデル地区事業の結果、何もないということでは不信感が募ってしまう。協力していただいた店舗に対しては挨拶というか、何かすべきではなかったか。もう一つは、地域活性化交付金については、色々活用させていただいているが、もっと使い勝手をよくした方が良いのではないかと感じている。

また、他委員から提案のあった自治会全世帯加入の制度化を検討しても良いではないか。自治会加入率が50%を下回るとどうなるか、市も困るのではないか、先を見ながら考えてもらいたい。

■地域活性化事業交付金については、ポイント制度による担い手育成という目的には合致していると思うが、対象経費については考えさせていただきたい。ただし、ハードルは高いと思っている。

自治会加入率については、今年度から50%を下回ってしまっている状況であり、地域情報の周知については半分の方しか周知できていないという実態を目の当たりにしている。出来るところから加入率アップの取組をしていきたい。

全世帯加入については、いくつかの市町村で条例化している。加入を義務付けるような表現をしているが、実態は任意加入である。現状のままではいけないと認識しており、若い職員も色々取り組んでいるところである。

◆加入の問題は、加入率の数字よりも、自治会員、未加入者も含めて、地域の人たちの自治会に対する考え方が昔と大分変わってきているように見受けられる。なるべく入りたくない、なるべく会費を払いたくない、そのような考え方が蔓延し、地域でまとまろうという考え方が無くなってきているように感じる。なるべく大勢の方に入ってもらおうための方策を、みんなで検討しているが、適当な方法が見つからないのも現状である。そういう意味で色々な情報や知恵を拝借できればよいと思うので、行政の対応についてよろしくお願ひしたい。

○市が自治会の役割を積極的にPRしても良いと思う。田名であれば、防犯協会の青パト活動運営費は自治会や財産管理委員会の自主財源で負担している。防犯協会だけでなく、公民館事業にも自治会から協力費、財産管理委員会から運営費を支出している。このように地域全体に対して、自治会は貢献していると考えている。相模原市と市連で連携協定を締結しているのだから、市がもっとPRしても良いのでは

ないか。

高齢社会に向けても自治会の役割は大切である。直接的には民生委員や社協ボランティアが担うことになるが、その者達を支援するのは誰か、地域をまとめている自治会である。地域担い手づくりとしての地域ポイント制度をしっかりと位置付けて、それをやることで地域づくりが進むと思う。

一番問題と思っているのが、PTAの役員の担い手不足、子ども会が解散してしまったことである。昔は、これらの活動から地域の担い手が育ってきた。公民館の体育指導員や青少年指導員もそうであろう。この部分がなくなってしまったことは自治会加入率にも影響している。市が積極的にPRすることによって、地域づくりの大切さを皆に知ってもらい、より住みやすい相模原市になるのではないか。

子育ての世代が相模原市から転出してしまっているというデータもあった。地域を考えた時に通学などの問題もあろうが、相模原市に愛着を持っていないからではないか。自治会活動含めて、積極的に市が関わっても良いと思う。その部分も含めて、今後、検討いただきたい。

- ◆本日はさがみはらポイント制度に係る田名モデル地区事業の結果報告であるため、まちづくり会議としては何か結論のようなものは出さないが、本日の意見を踏まえながら、今後も検討していかなければならない。

3 その他

次回のまちづくり会議は、令和3年12月14日（火）18時からとし、地区連から自治会加入促進対策に係る報告と田名地区防災計画の修正についての報告を予定している。

4 閉会（木下副会長）

以上

令和3年度 第4回田名地区まちづくり会議委員名簿（敬称略）

令和3年11月16日

	団体名	役職	氏名	出欠
1	田名地区自治会連合会	会長	志村 勝美	○
2		副会長	代田 修	○
3		副会長	山田 二郎	○
4		会計	高野 仁	
5		事務局長	花房 博文	
6	田名自治会連合婦人会	会長	外岩戸 満里子	○
7		副会長	阿部 真美	
8	田名公民館	館長	大谷 政道	○
9	田名地区社会福祉協議会	会長	田所 恒男	○
10	田名地区民生委員児童委員協議会	会長	江成 陽子	○
11		書記	首藤 幸治	○
12	田名財産管理委員会	会長	田所 昌訓	○
13	田名地区公共交通整備促進協議会	事務局長	鈴木 鐵蔵	○
14	田名地区防犯協会	会計	篠崎 隆司	○
15	田名地区青少年健全育成協議会	会長	木下 國博	○
16	P T A田名中学校区三校合同会議	代表（田名小学校P T A副会長）	永保 貴章	
17	田名地区老人クラブ連合会	会長	小島 昭二	
18	J A相模原市田名支店運営委員会	市農協理事	田所 茂雄	○
19	田名地区ボランティアグループ	代表（市食生活改善推進団体 わかな会田名地区）	浅見 泰子	○
20	田名地域包括支援センター	センター長	矢口 君代	○
21	有識者			

出席（○） 15

欠席（ ） 5

合計 20